

教科の重点 【図工・美術】科

表現活動を通して、発想や構想の能力を高める

	【指導の重点】	【主となる単元】	【発想や構想の能力を高める工夫】	
			絵画・彫刻に表す	デザインや工芸に表す
中 三	イメージマップ テーマの設定 テーマに遭った構成 テーマに合った画材 アイディアスケッチ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">私との対話</div>	3年間に習得した技術を生かし、自分の思いを自画像を通して表現する。自分についての短作文を作ったり、イメージマップを描いたりして、自分自身と向かい合わせ、テーマを探る。そこから表情、ポーズ、視線、背景を一つずつ考えさせていく。	
中 二	言葉からの発想 アイディアスケッチ イメージに合った色彩 計画	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">CDジャケットのデザイン</div>		自分の思いを表現できるよう、イメージを言葉で発想させる。そこから簡単なイメージ画を描き、さらにそれを画面へ構成させる時、いくつかの例を見せ、取り入れかたを考えさせる。
中 一	単位系のデザインの発想 構成日の要素を生かす アイディアスケッチ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自然の色や形</div>		自然物を様々な角度からスケッチさせ、色や形の特徴を発見し、デザインを発想させる。美の秩序を学習し、いくつか発想の練習をさせる。

小六	<p>○構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップ ・言葉のスケッチ ・アイデアスケッチ 	<p>伝え方を たのしもう</p> <p>布と枝の コンサート</p>	<p><表現の始まり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの視点を決めて材料を集めたり場所を探したりする、見る人がどのように感じるかなどに思いを巡らせながら構想するなど、発想の手立てを工夫する。 <p><表現の過程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料と場所の関係を自分の感覚や活動を通してとらえられるようにする。 	<p><表現の始まり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことをお互いにつながりのあるものとしてとらえる。 ・主題の発想については児童自身が行うことを大切にするとともに、視点や見方を広げる、自分の心に問いかけるなどの工夫をする。 <p><表現の過程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人がこれまでの経験を十分に生かすことができるよう、立体の表面で模様や色の組み合わせを工夫する、動きや仕掛けの面白さを絵に組み入れるなど、児童が思い付いたことを進んで取り入れるよう柔軟な指導を心掛ける。
小五		<p>色を重ねて 夢を広げて</p> <p>めざせ、 ローラーの達人</p>		
小四	<p>○発想の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞作品やお互いの表現・アイデア ・感じたこと、考えたこと <p>○試せる場の設定</p>	<p>つくって、つ かかって、たのし</p> <p>みんなでどんど ん、むすんでつ ないで</p>	<p><表現の始まり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料から場所を考えたり、活動する場所にある材料を活用したりするなど、児童がいろいろ試みの中で発想が広がるような指導を工夫する。 <p><表現の過程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料とかかわる中から生まれた一人一人の気付きイメージなどを基に、児童が自然に発想を交換したり、話し合ったりすることを大切にす。 	<p><表現の始まり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の示し方を工夫し、児童が自分で表したいことを選べたり、試しながら表せるようにしたりするなど、児童が進んで表したいことを見付けられるようにする。 <p><表現の過程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確な手順どおりに表すというよりも、試しながら表したり、次第に表したいことや用途などが明確になったりするような工夫をする。
小三		<p>だんだん だんボール</p> <p>いつもの場所で</p>		
小二	<p>○材料や用具に十分にかかわらせる。</p> <p>○行きつ戻りつの学習活動</p>	<p>かみを立てたか たちから</p> <p>ちきゅうからの おくりもので</p>	<p><表現の始まり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が十分に材料にかかわることのできる安全な場所の準備、児童が進んで造形活動を始めるような提案、一人一人の児童が発想を広げることができる時間の確保などの工夫をする。 <p><表現の過程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「感覚や気持ち」と「つくること」を切り離さないように配慮する。そのために一人一人の表現の思いを材料や友人などの児童の取り巻く関係からとらえ、造形的な試みを見守り、励ますようにする。 	<p><表現の始まり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形活動自体を楽しむ傾向を生かし、児童の意欲が高まり、継続するような指導を心掛ける。表したいことの変化などには柔軟に対応する。 <p><表現の過程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が好きな色を選んだり、納得するまでつくり直したり、行きつ戻りつしながら表すことを大切にする。
小一		<p>できたらいいな こんなこと</p> <p>ふわふわポンポ ン</p>		